2015 年 10 月 10 日　公開　　2015 年 10 月 16 日　加筆･更新

研究者の皆様へ

私（岩崎純一）をご研究の対象とされる場合の
研究者への私からの要望および私の知覚等に対する
検証実験･フィールドワークの逆提案
（共感覚、超音波知覚、各種考案体系）

岩崎純一

岩崎純一のウェブサイト
http://www.iwasaki-j.sakura.ne.jp/

岩崎純一の
共感覚記憶データベース

日本共感覚研究会

超音波知覚者コミュニティ東京
COPULASA-Tokyo
超音波装置探索フィールドワーク、超音波知覚の検証、
聴覚・共感覚の研究、コウモリなど動物の超音波研究

岩崎式
日本語

岩崎式
日本語

2015 年 10 月 10 日　公開　　2015 年 10 月 16 日　加筆･更新

目次

1. 私の知覚に対する検証実験の提案と研究者の募集、およびその目的
2. 研究者への私からの要望事項の一覧
3. 岩崎純一の共感覚の経年変化に関する実験の提案
   (1) 実験方法の提案
   (2) 実験にかかる労力･人員･費用･年数などと、これまでの実験の実施状況
   (3) 私がこの実験を提案する理由
4. 岩崎純一の超音波知覚に関する実験の提案
   (1) 実験方法の提案
   (2) 実験にかかる労力･人員･費用･年数などと、これまでの実験の実施状況
   (3) 私がこの実験を提案する理由
5. 特殊知覚を有する本人が自らの特殊知覚を研究することで逸する科学的信憑性について

随時更新中です。

2015 年 10 月 10 日　公開　　2015 年 10 月 16 日　加筆・更新

1. 私の知覚に対する検証実験の提案と研究者の募集、およびその目的

本文書をご高覧下さり、誠にありがとうございます。

唐突な話になりますが、私（岩崎純一）は、共感覚や超音波知覚を有して生活しております。これらは、私自身にとっては唐突なテーマではなく、十年以上に渡り自ら研究してきたテーマです。

現在、私の知覚に関する以下のような検証実験を実施して下さる研究者の方々を募集しております。

これらの検証実験は、私自身が一人で、または少数の研究者（個人研究者が中心）と共に、すでに実施してきたものではあります。しかし、個人レベルでのライフワークとしての研究、知覚者当人による研究、私の自費による研究の三要素がそろってしまっている現状では、費やすことのできる労力・人員・費用・年数などに限界があるほか、同じ研究内容であっても説得力・科学的信憑性が格段に違ってしまうのが難点であると感じています。

（例えば、「自分は共感覚や超音波知覚を持っている」と懸命に告白してくる我が子を疑い、叱りつけている親に、それらの実在性を理解してもらうときや、私の共感覚や超音波知覚を動物の生態の解明や地震予知などに活用していただきたいと動物園スタッフや地震学者の方々に主張するときの、科学的な説得力が、現状の私には決定的に欠落している。）

ただし、限界があると言っても、実際のところは、私が大学・研究機関から依頼されて受けてきた共感覚などの「実験」と名の付くものは、実施者の懸命さが伝わってくる実験もあるものの、私が個人として実施してきた共感覚などの記録よりも、多額の経費をかけているにもかかわらず、規模が小さいものが多い状況です。

また、もう十年以上に渡り、多くの方々が同じような実験で論文を書いておられる点も、私は気になっておりますし、実験方法が非常に即席かつ単純であるものが多い点も、私には少なからず不満に感じられております。

すなわち、私は本文書での提案に、「大学・研究機関の共感覚などの研究者は、与えられた大学や人のお金を、本当に共感覚などの研究に有効に使っていますか？」という研究者への問いかけの意味も込めていると考えていただいて差し支えありません。STAP 論文問題など、研究者の人間性が大きく問われる昨今、人間の各種知覚を扱う研究者にも、このことは問われるべきであると考えます。

本文書で提案させていただく検証実験の実施については、とりわけ人員・費用・説得力の面や、ニッチな（多くの人が目をつけない、すきまの）科学分野の知見の進展という意味において、以下のポスト・社会的立場などに就いていらっしゃる研究者が有利であると考えます。

（もちろん、ポスドク、派遣研究員、大学院生、学生、個人研究者などの方々によるご研究や、博論・修論・卒論のための実験への参加のご依頼も、これまで通り歓迎致します。）

大学教員（国立大学法人、私立大学、学校法人等の別を問わない教授、准教授、講師、助教など）
国立・地方自治体所管研究所研究員

独立行政法人・特殊法人研究所研究員
民間企業研究員
医療従事者（医師、看護師、薬剤師等）

私は、共感覚については、日本の神経科学界や心理学界で扱われ始めた黎明期より、自らの共感覚をウェブサイト上で公表してきました。これまでに、拙著が出版されているほか、この十年間に、およそ 80 名の共感覚者と面識を持ち、およそ 500 名の共感覚者を名乗る方々とメールを交わし、およそ 10 の大学や研究機関で被験者として実験を受け、およそ 10 の大学や研究機関で共感覚についての講義を行ってきました。

従って、日本国民の間で形成されてきた共感覚ブームの実態から、共感覚研究者の考えていることまで、一通りのことは観察してきたと考えております。現在、「日本共感覚研究会」を立ち上げております。

また、超音波知覚とは、文字通り、私に超音波が知覚できることを述べているものです。具体的には、超音波式動物防除装置、自動ドアの超音波センサー、自動車の超音波センサー、一部のコウモリなどの動物などから発せられる超音波が、私には聴覚・身体感覚・共感覚などで知覚できております。

その客観性を高めるため、「超音波知覚者コミュニティ東京」を立ち上げ、超音波発生スポットの報告マップを作成してサイト上で公開してきました。

その後、サイトやマップをご覧下さり、お問い合わせ下さったコウモリの生態・超音波の研究者（後述）に、超音波装置の存在と私の超音波知覚の検証を依頼し、フィールドワークを実施しました。そうしたところ（下記の説明やフィールドワーク報告書をご参照下さい）、私が指摘した通りの箇所に実際に超音波装置などが存在していることが分かり、マップとの一致率は 9 割 5 分を超えている状況です。

超音波装置からの人工超音波は不快であることがほとんどであるため、研究者の方々には、まずはこちらをご研究いただき、後述の「超音波騒音公害」概念の確立にご協力いただければありがたく思いますが、ひいては、私がコウモリやイルカの超音波を聴覚・身体感覚・共感覚などで分析し、コウモリどうしやイルカどうしの伝達内容を解読できれば、動物やヒトの生態の知見も一層進むものと考えられます。

結局のところ、私が私自身の研究について問題視しているのは、根本的には研究内容ではなく、（自分で自分の知覚を研究することによる）説得力の欠如の一点のみであると言えます。

私の共感覚や超音波知覚をご研究いただくにあたり、被験者としての私から、以下のような検証実験の実施を逆提案します。

2. 研究者への私からの要望事項の一覧

＊　STAP 論文問題など、研究者の人間性が大きく問われる事態が発生している昨今です。研究者・被験者どうしの人身や研究・実験・質問・回答行為そのもの、データなどの買収・売り渡しや盗用・捏造の共謀などを避ける

ため、研究・検証実験は、必ず研究者または研究機関による費用の負担と社会的責任において、研究者または研究機関の研究・検証実験として実施し、岩崎を被験者として位置づけて下さいますようお願い申し上げます。

　また、研究者として不適当である人物をメンバーに含む研究であることが事後に判明し、その事実を岩崎に通達していなかった場合は、被験者名リストからの岩崎の名の末梢を要求することがあります。

＊　私がサイトで公表している共感覚・超音波知覚や実際の検証実験などで回答したそれらの知覚と異なる知覚を、岩崎の知覚として捏造・報告しないで下さい。

＊　特に、大学の研究主催者・研究指導者（教授、准教授級の方々）と研究実務・実験担当者（ポスドク、大学院生、学生など）とが異なる場合は、倫理教育や民法上・著作権法上の常識的な教育を徹底して下さいますようお願い申し上げます。

（特に、学生・研究者の博論・修論・卒論の場合に、実験契約を交わそうとしない、事前の契約通りに実験後にデータを渡さない、態度が悪い、私のサイトの共感覚に関する著作物を無断で使用する、などの残念な出来事が過去に見受けられました。）

＊　このほか、私（岩崎）をご研究されるにあたり、以下に掲げる私のサイト内の各ページをお読み下さい。

●法令に基づく表示
http://www.iwasaki-j.sakura.ne.jp/law.html

●ご訪問者の方々向けのご留意事項
「日本のスピリチュアル・ブーム、脳ブーム、超常現象・オカルト科学ブーム、カルト・新宗教団体等の現状に鑑みた、共感覚等の扱いに関する留意事項」
「統合失調症、不安障害、解離性同一性障害、発達障害、共感覚等、国民間で各種の偏見問題や実在性・信憑性への疑義論争が存在する知覚様態・精神疾患に関する留意事項」
「当サイトにおける精神疾患者等の個人情報の扱い、および DV・暴力・虐待等の加害者への対策について」
「公的機関の相談窓口・ホットラインや警察などへの相談・通報の重要性について」
http://www.iwasaki-j.sakura.ne.jp/ryui.html

◆超音波知覚者コミュニティ東京に関する留意事項

●【注意勧告】当コミュニティが疑似科学団体やテクノロジー犯罪被害者団体と友好関係にあるかのように紹介されている事例に対する注意勧告、および統合失調症や妄想性障害の既往歴・現病歴の確認のお願い
http://www.iwasaki-j.sakura.ne.jp/choonpa/#chui

●報告者、注意事項「やっていいこと、やってはならないこと」、最低限の物理学的知識の学習のお願い
http://www.iwasaki-j.sakura.ne.jp/choonpa/gaiyo.html

◆岩崎式日本語に関する留意事項

●言語の概要と研究会（岩崎式日本語に触れていただく際の注意点）
http://www.iwasaki-j.sakura.ne.jp/iwasaki_shiki_nihongo/gaiyo.html

●岩崎式日本語の使用者の方々向けの注記
http://www.iwasaki-j.sakura.ne.jp/iwasaki_shiki_nihongo/chuki.html

3. 岩崎純一の共感覚の経年変化に関する実験の提案

(1) 実験方法の提案

(I) 岩崎純一の共感覚記憶データベースに掲載している「漢字の共感覚色一覧」の約三千字の漢字など、数百字～数千字の文字を白黒で岩崎に見せ、岩崎に色を答えさせたり色を塗らせる。
（何日かかってもかまわない。）

●岩崎純一の知覚・共感覚
http://www.iwasaki-j.sakura.ne.jp/synaesthesia/

●岩崎純一の共感覚記憶データベース
http://www.iwasaki-j.sakura.ne.jp/synaesthesia-database/

●漢字の共感覚色一覧
http://www.iwasaki-j.sakura.ne.jp/synaesthesia/my_synaesthesia_details1.html#kanji

(II) これらの記録（回答書類または回答データ・電磁的記録）を数年間または十数年間、研究実施者側で保管する。

(III) その後、再度岩崎に対し同じ実験を行い、著しい共感覚者の特徴を示すかどうかを検証する。
（例えば、9 割 5 分以上の色の一致率を示すなど。）
これを数年または十数年ごとに複数回繰り返し、追跡調査する。

(2) 実験にかかる労力・人員・費用・年数などと、これまでの実験の実施状況

人員と費用はほとんど必要ありませんが、数千字にのぼる複数回の文字の共感覚色の記録と保管は、日本では前例がなく、労力と年数ばかりがかかると思われます。

そのため、元より「生涯の仕事、ライフワーク」として長期スパンで行い続ける覚悟のある研究者に向いた仕事・作業であり、学会発表や就職活動などにおける短期決戦での業績・即戦力を求める研究者・学者・ポスドク・大学院生・学生の研究には全く向かない仕事・作業と考えられます。

私自身は、元々が前者の気質を持つ人間であるため、自分で自分のこの感覚について、このような実験ばかりを楽しみながら実施しておりますが、やはりこの実験は、費用ではなく、労力・根気を費やすことを楽しめる人に向いた作業であることは確かだと思います。

(3) 私がこの実験を提案する理由

日本の共感覚研究発表には、

「被験者を集め、わずか数文字～数十文字程度の共感覚を記録　→　共感覚者であると結論　→　博論・修論・卒論 にするまで数ヶ月　→　結論：共感覚者はすばらしい。皆も個性を大切にして生きよう　→　このようなことを述べることができる自分の姿勢をビジネスや就職活動に生かせる」

という構図・構造を持ったものが多く、就職活動、大学制度、大学教員の学生に対する論文のステレオタイプ化された書かせ方などの現状を、私は極めて不満に感じています。

半ば自虐的な提案となりますが、共感覚者としてやや世に出ている私のような人間については、研究者側の都合（自分の高いポスト・社会的立場の獲得、大学の生き残りビジネス、自分の教え子の学生の論文や就職活動の指導）のためだけの甘い実験ではなく、研究者も被験者も襟を正されるような厳しい条件下での検証を課すべきであると考えています。

このような検証の蓄積こそが、これから生まれてくるであろう、共感覚を持つ日本の子供のためにもなるでしょう。
（共感覚などの豊かな感性を持っていることを理由にいじめられたり虐待を受けたりする子供が、ずっと少なくなる時代が来る、など。）

共感覚者当人である私ばかりが数千字の色の記録を残したところで、芸術作品としては残っても、いつまで経っても科学的知見にならないことは確かですので、なるべく私自身の検証結果を引用なさるよりも、何とか最初の段階からの実施をお願いしたいところです。

4. 岩崎純一の超音波知覚に関する実験の提案

(1) 実験方法の提案

(I) 私が超音波を聴覚・身体感覚・共感覚などで知覚し、超音波装置スポット報告マップに記録しているスポットに、実際に超音波装置が設置されているかどうか、また、設置されているならば装置の種類（ネズミ防除装置、自動ドアの超音波センサーなど）や製造メーカーを、フィールドワークにより調査する。

これにより、岩崎純一が主張する超音波知覚が虚偽でないことを確認する。

●超音波知覚者コミュニティ東京
http://www.iwasaki-j.sakura.ne.jp/choonpa/

●超音波装置スポット報告マップ
http://www.iwasaki-j.sakura.ne.jp/choonpa/spot.html

●コウモリなどの生態・超音波の研究者との合同調査（フィールドワーク）、岩崎の超音波知覚の検証
http://www.iwasaki-j.sakura.ne.jp/choonpa/bat.html

●同フィールドワーク計画書
http://www.iwasaki-j.sakura.ne.jp/choonpa/keikakusho20150922.pdf

●同フィールドワーク報告書
http://www.iwasaki-j.sakura.ne.jp/choonpa/hokokusho20150922.pdf

(II) 学生など、高周波音がまだ聴覚で聴こえている可能性が高く、参加の意志のある若年者を数十人集め、上記の調査（フィールドワーク）で歩いたのと同じスポットとルートを再び辿り、学生たちと岩崎との超音波知覚を比較する。

これによって、「岩崎には、平均的な若年者よりも鋭敏な聴覚によって 20kHz を超える超音波が聴こえているほか、超音波が身体感覚や共感覚でも知覚されている」可能性を検証する。

ただし、なるべく岩崎に似た被験者を事前に探し、一緒にフィールドワークを実施する。

(III) 公正取引委員会や消費者庁、超音波装置関連業者に対し、検証データを提示し、「超音波騒音公害」概念の確立を目指す。

（公正取引委員会や消費者庁は、下記のリンクページの通り、過去に「動物防除効果がないにもかかわらず、あると表示した、景品表示法違反」という理由で超音波式動物防除装置メーカーに法的処分を下したことがあり、

「超音波騒音」問題についてもやや認識があると考えられる。「超音波騒音公害」概念そのものは、コウモリの生態・超音波の研究者で、下記のフィールドワーク調査にご同行下さった宮本拓海氏が提唱している概念で、私もこれに賛同を示している。）

公正取引委員会や消費者庁に対しては、以下の違反事例に追加すべき事例がないかどうかについて、法的観点からのデータ検証を依頼する。

●公正取引委員会・消費者庁による法的処分、不良品に関する警告や回収、科学者による警告等
http://www.iwasaki-j.sakura.ne.jp/choonpa/iho.html

超音波装置関連業者（製造、下請、組立、流通、販売、輸入業者のいずれをも含む）に対しては、超音波知覚者の存在を丁寧に説明し、装置そのものの質の改善・向上、取扱説明書への超音波の正確なヘルツ・波長・音圧などの明記、街中での超音波の音圧の低減などを求める。

(2) 実験にかかる労力・人員・費用・年数などと、これまでの実験の実施状況

ありがたいことに、(1)の(I)については、コウモリの生態・超音波の個人研究者である宮本拓海氏に個人的に依頼した結果、快諾して下さり、コウモリ探知機を岩崎の超音波知覚の検証に転用し、すでに検証済みです。（前掲の計画書、報告書をご参照下さい。）

●超音波と超音波騒音
http://tokyobat.jp/ultrasonic.htm

●いきもの通信 Vol. 589(2014/11/23) [東京コウモリ探検隊!]バットディテクターでコウモリ以外の超音波を探してみた
http://ikimonotuusin.com/doc/589.htm

●いきもの通信 Vol. 591(2015/7/12) [東京コウモリ探検隊!]超音波騒音に気付いていますか?
http://ikimonotuusin.com/doc/591.htm

ただし、宮本氏や私が提案する「超音波騒音公害」概念の確立のためには、さらに大学・研究機関の物理学・生物学などの研究者・学者の主導でフィールドワークを実施していただければありがたいところです。

労力・人員としては、フィールドワークに協力して下さる大勢の若年者（学生など）を集める必要があることと、実際に超音波スポットを徒歩で回る（数名ずつのグループで、複数回に分けてもよい）ことの大変さがあります。

費用としては、私の超音波知覚は鋭敏すぎて、市販の超音波探知機（コウモリ探知機）などではあまり効果がないことが分かってきたので（私はしばしば、探知機よりも手前で超音波を知覚し、ネズミ防除装置や超音波センサーなどの超音波装置を発見してしまいます）、大学などの研究機関でのみ準備できるような高度な超音波探知装置による検証実験を実施していただければありがたいところです。

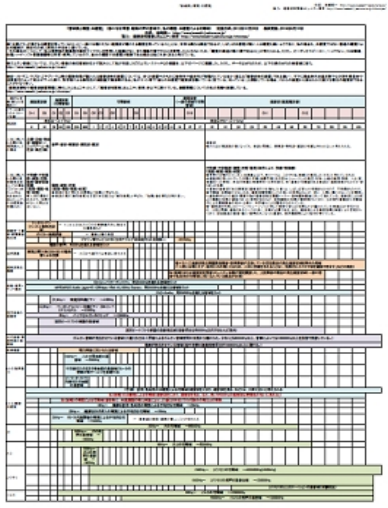
年数は、前述のように、一つの実験につき複数回に分けた場合に複数日になる程度だと見込まれます。

(3) 私がこの実験を提案する理由

私には、前述のように、鋭敏な超音波知覚があり、これによって街中の超音波装置からの人工超音波が不快に感じられているため、以下のリンクページのような生活上の実害を抱えております。

●代表者岩崎純一の超音波知覚（聴覚、身体感覚、共感覚による）、および、この知覚により日常生活で得をすることと困ることの紹介 1（文章での解説）、2（音域表、画像）

http://www.iwasaki-j.sakura.ne.jp/choonpa/



簡単に述べておくと、同じ目的地に移動するにも、最短距離と最小運賃を犠牲にしなければならないことがありますし、知人との食事場所を予約するにも、私自身が滞在できる場所でなければならないため、予約そのものが困難であることがあります。

また、それが外勤での重要な会議の会場などである場合、下手をすれば社会的信用を失います。そのような状況下で、「私には超音波が知覚できており、この部屋には超音波式ネコよけ装置が設置されていて不快であり、頭痛がするため、出席を辞退したい」などという理由が通用するはずがありません。極めて物理学的・知覚心理学的に高度で正当な内容が、極めて滑稽な笑い話に聞こえてしまう良い例です。

堂々と前述のような発言をして失敗した過去が何度かありますが、こういった現状におけるストレスの増大が、私にとって、社会で生きていく上で決定的な致命傷となっています。このような実害が生じている超音波知覚者がいるからこそ、前述の宮本拓海氏が提唱する「超音波騒音」の「公害」概念化は、極めて有効であると考えられます。

このあたりの経緯については、前述の報告書にも詳しく記述しております。

また、私にとって不快ではない超音波の研究として、もし多額の費用をかけて、私がコウモリやイルカの超音波などを聴覚・身体感覚・共感覚で分析し、コウモリどうしやイルカどうしの伝達内容を解読できれば、動物やヒトの生態の知見も一層進むものと考えられます。

あえて非科学的なフレーズで本音を述べるならば、「超音波や超高周波音ならばまだしも、比較的低い音域の高周波が街の至る所で鳴っていることにさえ気づかない大勢の人々の鈍感さが滑稽で信じがたく、ある意味で私は、それらの人々には聴こえない世界を存分に楽しんでいるのかもしれない」と感じております。

ただし、ここでの滑稽さとは、他の動物に対する（私を含む）現代の人類の知覚の矮小さに私が見ている壮大な滑稽さであり、周囲の人々に対する私の見下しなどではないとも感じます。

とにもかくにも、まずは、超音波装置からの不快な超音波を、聴覚で、あるいは身体感覚・共感覚で知覚できてしまう私のような人間の存在を、継続的に公正取引委員会や消費者庁、超音波装置メーカーに報告するにあたり、第三者による私の超音波知覚の詳細な検証データが必要です。ご協力いただける大学・研究機関などの研究者を探しております。

5. 特殊知覚を有する本人が自らの特殊知覚を研究することで逸する科学的信憑性について

余談ではございますが、私を研究して下さろうとしている科学者・研究者に対して最も重点的・根本的に述べたいことに言及させていただきます。

自分の知覚世界を長年に渡り探究してきて、今改めて感じることは、現代の日本において、特殊知覚を有する本人が自らの特殊知覚を探究し、「このような特殊知覚がある」と主張することは、多かれ少なかれ、科学のあり方としても人としても信頼性・信憑性を逸する行動であることには間違いない、ということです。

これは、私だけの問題ではありません。自身のサイトを作り迂闊に共感覚を告白したがために、それを発見した同僚が上司に「おかしな感性・センス」として報告し、職場内での立場や上司との関係に悪影響が出た男性がいらっしゃったり、学校においてそれらを告白したがために、いじめを受けたお子様もいらっしゃいます。あまりそうはならなかった私は、運がよいだけであると考えます。

特に、2007 年頃から 2010 年頃までの共感覚ブームの頃、自身の共感覚をネット上で盛んに公開し、自身の共感覚サイトまで立ち上げていた数名の男性が、社会人になった途端に、あるいは転職などを機に、それらの行動をパタリとおやめになったのは、こういった知覚のネット上での公表が、社会人男性として致命的であるからだと思います。

私がこうして、自分のサイトを作り共感覚や超音波知覚を堂々と公表し続けているのは、実は根本的には、あまりそのようなことを気にしていないからでしょうし、気にしてどうにかなることではないと考えているからだと思います。

しかし、確かにこれが、そのようなこと（上司や同僚からの人間評価など）が気になる社会人男性だったり、一定

以上の昇進を遂げたり家庭を持ったりして大きな責任を負っている社会人男性となると、様々な犠牲を払ってもよいと思えるよほどの覚悟がない限り、自分の心身に起きている共感覚や超音波知覚などの感覚的・感性的事態を公表することは、時代性に鑑みて、余計に差し控えたほうがよいということは言えると思います。

共感覚や超音波知覚のネットでの公表そのものが、たとえ当人にとってはライフワークであり、これ以外に、自分の人生のためにも、今生きている（これから生まれてくるであろう）感覚・感性の豊かな日本のいじめられっ子たちのためにもなることはないと思える行動であっても、社会人男性としての人生においては、（知人や同僚・仕事のパートナーなどからいつ目を付けられるかという意味で）一つの冒険であり、一つの恐怖であり、危険行動であるとさえ言えるのだと思います。

しかし私は、研究者の姿勢や、科学界を観察・監視する一般国民の姿勢だけでなく、知覚保持者・被験者側の態度も、真剣さに欠けており、意識が甘すぎるということを常々思います。

とりわけ、日本での共感覚の扱いについては、十年ほど前にブームに火がついたかと思いきや、ここ数年でまた飽きられてきており、研究者も、被験者も、天才児を育てたいと企んでいる主婦も、共感覚ビジネス界も、その風潮に乗っている状況で、一貫した姿勢においてライフワークとして我が事として真剣に共感覚と向き合っている日本人など、ほとんど見当たりません。

そうかと思いきや、現在は、共感覚関連ビジネス・関連産業はむしろ人気となっています。私としては、これらの事業が 2020 年東京オリンピック・パラリンピックの利権と化しつつあることを懸念し、日本共感覚研究会として以下のような報告書を作成しています。

●産学官民による「共感覚・知覚・感性」関連事業の 2020 年東京オリンピック・パラリンピック利権化に対する注視
http://www.synaesthesia.jpn.org/hokokusho/hokokusho6.pdf

超音波知覚者コミュニティ東京においても、自分の超音波知覚に対する学術的関心を自分で一年以上維持できる人は稀です。多くの場合、「自分は感性がけっこう豊かだという自負だけは持ち、街中でキーンという音が聴こえるけれど、計算や数字や物理が苦手で、そのあたりは人任せにする、一般の主婦や若者や高齢者たち」に戻っていくのです。

こういうことは、人それぞれに事情がありますので、致し方ない面もありますが、知覚者当人たちがこのように非学術的な態度である限り、あとはこれらの知覚が各種のビジネスに都合よく利用されていくことは否めないと思います。

半ば自虐的な話になりますが、私のように、鋭敏な知覚の保持者としてある程度世に名が出ている者に対しては、常に大学などの研究機関の研究者の誰かが目を光らせ、本文書にて提案するような厳しく有意義な検証実験を課すべきであると考えております。すなわち、日本の科学は自称特殊知覚者を野放しにしすぎているとの不満を、私は抱えております。

このような問題は、本当は、科学的事実の是非の問題や学術用語（テクニカルターム）の使い方の問題ではな

く、お互いの人格・気質の問題や人の「肩書き上」の信用の問題であると言えます。STAP 論文問題など、研究者の人間性そのものに関わる事態の発生が、その傾向を助長している現状もあると思います。

私が私自身に対する厳格な検証実験を第三者に逆提案する理由は、根本的にはこれらの点にあると言えます。